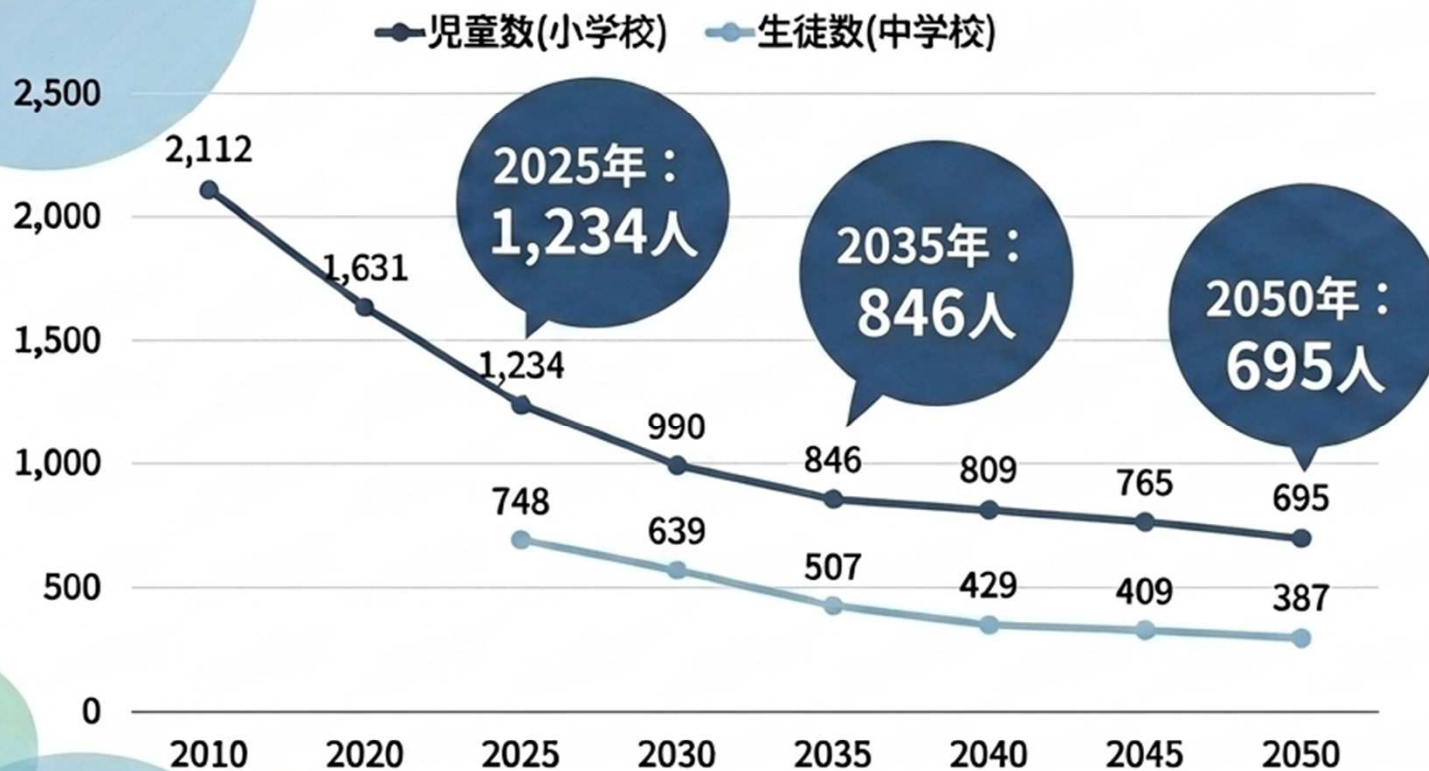


令和8年度「まちづくりふれあい懇談会」

未来を育む学校づくり！
みんなでえがく「新しい学校」のカタチ

網走市教育委員会

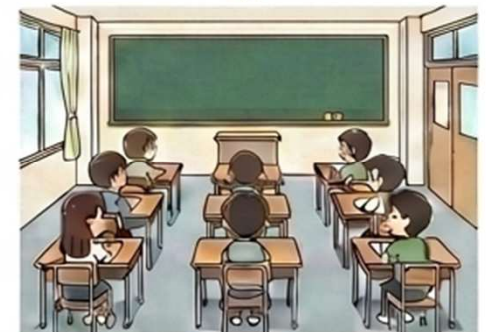
急速に進む少子化：2035年には児童数が約3割減少



このままでは少子化が進み、2035年度には児童数が約400人減少します。多くの学校が1学年1学級や複式学級となり、多様な仲間と切磋琢磨する環境が失われてしまいます。



現在の学級：
多様な仲間との交流



未来の学級：少子化により
切磋琢磨する環境の喪失

子どもたちのための、より良い教育環境の維持・整備

最優先は「子どもたちのための教育環境」

- 安心して学べる環境の維持・整備が第一目的
- 老朽化（築30年超）した校舎の維持補修
- 将来世代に責任ある教育環境を引き継ぐ

課題と対応

今後30年で約337億円の費用が見込まれる中、限られた財源を有効活用し、将来の子どもたちにとって最善の教育環境をどう実現していくかが課題です。コスト削減が目的ではなく、持続可能な環境づくりへの投資です。



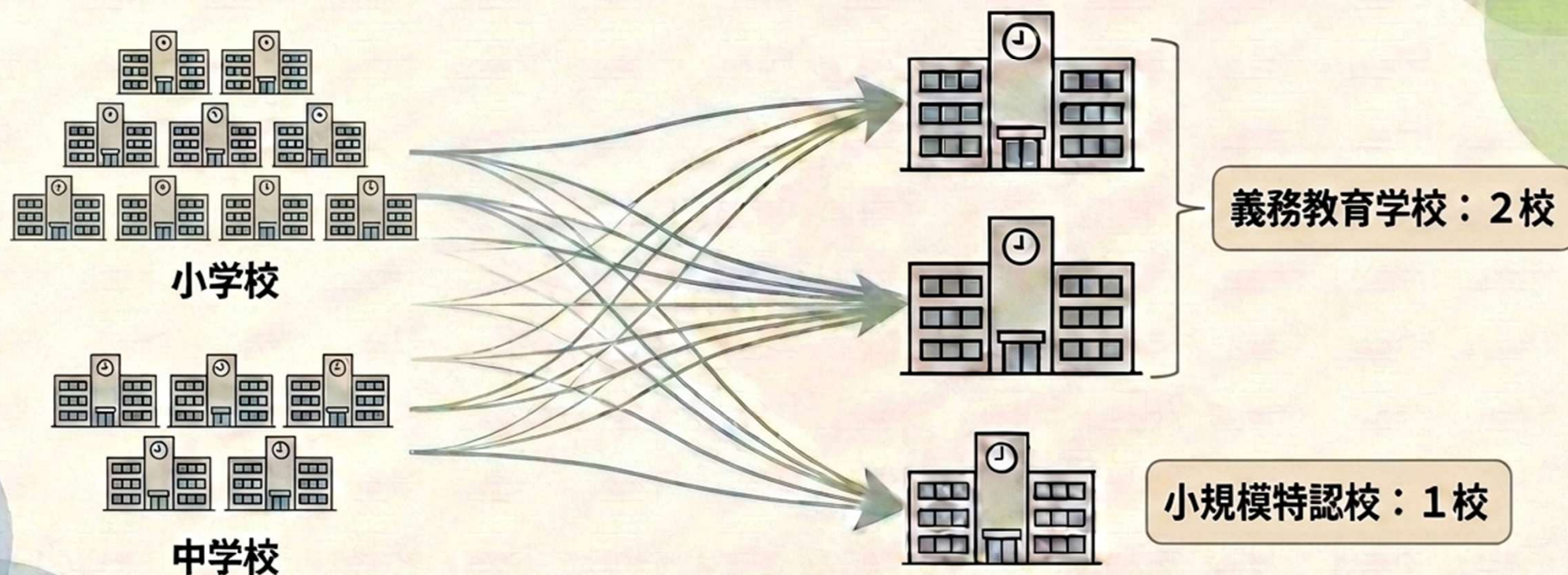
「適正規模化」の必要性～多様な学びと切磋琢磨のために

網走市の学校規模の考え方：小学校12～18学級（各学年2クラス以上）、中学校9～15学級（各学年3クラス以上）



少人数クラスならではのきめ細やかな指導の良さを大切にしつつ、子どもたちが多様な考えに触れ、意見を交わし合う「集団での学びの機会」を、将来にわたってどのように確保していくかを考えます。

目指す将来像：「市内全3校体制」へ



移行により、専門性の高い教員配置も可能となり、そして豊かな同世代コミュニティを見据え、9年間の連続した学びを保障する「質の高い3つの教育拠点」を目指します。

将来的な学校再編イメージ

教育委員会が想定する「小規模特認校 1 校＋義務教育学校 2 校」の市内全 3 校体制

	2025年	2028年	2030年	2035年
案 1：段階を経ず全3校にする場合 市街地域に 2 つの義務教育学校を配置し、小規模特認校と合わせた全 3 校体制とする案	全14校体制	全13校 中央小 ＋ 西小	> > > >	全3校体制
案 2：郊外校を再編しつつ最終的に全3校にする場合 東部地区、西部地区にそれぞれ義務教育学校を設置し、郊外校の集約・再編を検討する案	全14校体制	全13校 中央小 ＋ 西小	全10校 白鳥台小 ＋ 東小 ＋ 第四中 西が丘小 ＋ 第五中	全3校体制
案 3：郊外校を市街校へ再編しつつ最終的に全3校にする場合 郊外校を市街地校へ再編しつつ、最終的に全 3 校にする案	全14校体制	全13校 中央小 ＋ 西小	全8校 南小 ＋ 東小 ＋ 白鳥台小 中央小 ＋ 西が丘小 第二中 ＋ 第五中 第三中 ＋ 第四中	全3校体制

※母体校を赤字としています

※ 3 つの案については、将来的な学校再編のイメージであり、この中のいずれかで進め方を決定するものではありません

【義務教育学校】小学校と中学校の 9 年間を一つの学校として、一貫した教育を行う学校

【小規模特認校】少人数教育の利点を生かしたきめ細やかな指導と特色ある教育活動を行う学校として市が指定する学校

今後の進め方：地域とともにある学校づくりを目指して





「網走市立小中学校適正規模・
適正配置に関する基本的考え方」は
こちらから（網走市ＨＰ二次元コード）



「網走市学校施設等改修計画」は
こちらから（網走市ＨＰ二次元コード）